クレメンスの第二の手紙

著者不明
藤遥　制作

1〜6章　行いによってキリストを告白する

1:1 兄弟たちよ、わたしたちは、イエス・キリストについて、神について考えるように考えなければなりません。生きている者と死んだ者との審判者について考えるように、考えなければならないのです。わたしたちの救いを、小さなことと考えてはなりません。1:2 実際、わたしたちがこの方を小さく考えれば、受けようと望むものも小さくなります。小さな事柄を聞くように聞く人々は、罪を犯しています。わたしたちも、知らないで罪を犯しているのです。わたしたちが、どこから、だれによって、どこへと召されたのかを知りません。イエス・キリストが、わたしたちのために、どれほど多くの苦しみを耐え忍ばれたのかを知らないのです。1:3 それでは、わたしたちは、この方にどんなお返しをするのでしょうか。この方が与えてくださったものにふさわしい、どんな実をささげるのでしょうか。わたしたちは、どれほど多くのきよい務めを、この方に負っているでしょうか。1:4 実際、この方は、わたしたちに光を与えてくださいました。父のように、わたしたちを子と呼んでくださいました。滅びかけていたわたしたちを、救ってくださったのです。1:5 それでは、わたしたちが受けたものに対して、この方にどんな賛美をささげるのでしょうか。あるいは、どんな報いをお返しするのでしょうか。1:6 わたしたちは、思いにおいて盲目でした。石や木や金や銀や銅を、人の造ったものを拝んでいました。わたしたちの生涯はすべて、死にほかなりませんでした。わたしたちは、このように暗さに包まれ、目には深い霧が満ちていました。それなのに、この方のみこころによって、身を包んでいたあの雲を脱ぎ捨てて、ふたたび見えるようになったのです。1:7 実際、この方はわたしたちをあわれみ、哀れに思って救ってくださいました。わたしたちのうちに多くの迷いと滅びをごらんになったからです。また、わたしたちが、この方からの救いのほかには、救いの望みを何も持っていないのを、ごらんになったからです。1:8 この方は、まだいなかったわたしたちを召し、無からわたしたちが存在するようにと望まれたのです。

2:1 『喜べ、子を産まない不妊の女よ。声を放って叫べ、産みの苦しみを知らない女よ。見捨てられた女の子らは、夫ある女の子らよりも多いからである』（イザヤ五四・一）。『喜べ、子を産まない不妊の女よ』と言ったのは、わたしたちのことを言ったのです。わたしたちの教会は、子が与えられる前には、不妊の女だったからです。2:2 『叫べ、産みの苦しみを知らない女よ』と言ったのは、こういうことです。わたしたちの祈りを、ひたすら神にささげることです。産みの苦しみをする女たちのように、くじけないようにしましょう、と言っているのです。2:3 『見捨てられた女の子らは、夫ある女の子らよりも多いからである』と言ったのは、こういうことです。わたしたちの民は、神から見捨てられているように見えました。しかし今、信じたわたしたちは、神を持っていると思われていた人々よりも、多くなったのです。2:4 また、聖書の別の箇所も、こう言っています。『わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである』（マタイ九・一三、マルコ二・一七）。2:5 これは、滅びかけている者たちを救わなければならない、ということです。2:6 実際、立っているものを支えることではなく、倒れかけているものを支えること、それこそが大いなる、驚くべきことなのです。2:7 そのようにキリストも、滅びかけているものを救おうと望まれました。そして、来て、すでに滅びかけていたわたしたちを招き、多くの人を救われたのです。

3:1 この方は、わたしたちに、これほど大きなあわれみを施してくださったのです。まず第一に、生きているわたしたちは、死んだ神々にいけにえをささげず、それを拝むこともありません。かえって、この方によって、真理の父を知ったのです。それならば、父を知る知識とは何でしょうか。わたしたちに父を知らせてくださった方を、否まないことではないでしょうか。3:2 この方ご自身も、こう言われます。『人々の前でわたしを告白する者を、わたしは、わたしの父の前で告白するであろう』（マタイ一〇・三二）。3:3 ですから、わたしたちを救ってく

だされた方を告白するなら、これが、わたしたちの受ける報いとなるのです。3:4 では、わたしたちは、何によってこの方を告白するのでしょうか。この方の言われることを行い、その戒めを聞き流さないことによってです。くちびるだけでこの方を敬うのではなく、心を尽くし、思いを尽くして敬うことによってです。3:5 また、イザヤ書の中でも、こう言われます。『この民は、くちびるではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている』（イザヤ二九・一三）。

4:1 ですから、この方を、ただ主と呼ぶだけにしないようにしましょう。それがわたしたちを救うのではないからです。4:2 この方が、こう言われるのです。『わたしにむかって「主よ、主よ」と言う者が、みな救われるのではない。義を行う者が救われるのである』（マタイ七・二一）。4:3 ですから、兄弟たちよ、行いによってこの方を告白しましょう。互いに愛し合い、姦淫をせず、互いに悪口を言わず、ねたまず、自制し、あわれみ深く、善良であることによってです。わたしたちは、互いに苦しみを共にすべきであり、金を愛してはならないのです。これらの行いによって、この方を告白しましょう。その反対の行いによってではありません。4:4 わたしたちは、人を恐れるよりも、神を恐れなければなりません。4:5 このため主は、あなたがたがそのようなことを行う場合について、こう言われました。『あなたがたが、わたしと共に、わたしのふところに集められているとしよう。それでも、わたしの戒めを行わないなら、わたしはあなたがたを投げ捨てる。そして、あなたがたに言う。「わたしから離れて行け。あなたがたがどこから来た者か、わたしは知らない。不法を働く者たちよ」』[1]。

5:1 ですから、兄弟たちよ、この世での寄留を捨てて、わたしたちを召してくださった方のみこころを行いましょう。この世から出て行くことを恐れないようにしましょう。5:2 主が、こう言われるのです。『あなたがたは、おおかみの中にいる小羊のようになる』。5:3 すると、ペテロが答えて、主に言いました。『それでは、もしおおかみが小羊を引き裂いたら、どうなるのですか』。5:4 イエスはペテロに言われました。『小羊は、死んだあとでは、おおかみを恐れなくてよい。あなたがたも、あなたがたを殺すだけで、それ以上は何もできない者たちを恐れるな。むしろ、あなたがたが死んだあとで、魂とからだを地獄の火に投げ込む権威を持つ方を恐れなさい』[2]。5:5 兄弟たちよ、知っておきなさい。この肉がこの世に滞在するのは、わずかで、短い間です。しかしキリストの約束は、大いなる、驚くべきものです。それは、来たるべき御国と永遠のいのちとの安息です。5:6 では、何をすれば、それらを得ることができるのでしょうか。きよく正しく歩み、この世のものを他人のものとみなして、それを欲しがらないことではないでしょうか。5:7 実際、わたしたちは、それらを手に入れたいと欲するとき、正しい道から落ちてしまうのです。

6:1 主は、こう言われます。『どの僕でも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない』（ルカ一六・一三）。わたしたちが、神にも富にも仕えようとするなら、それはわたしたちの益になりません。6:2 実際、だれかが全世界をもうけても、自分の魂を損したなら、何の得になるでしょうか。6:3 この世と来たるべき世とは、互いに敵どうしの二つの世です。6:4 この世は、姦淫と堕落と、金を愛することと欺きとを勧めます。しかし来たるべき世は、これらに別れを告げます。6:5 ですから、わたしたちは、この二つの両方の友となることはできません。この世に別れを告げて、来たるべき世とかかわって生きなければなりません。6:6 わたしたちは、こう考えます。ここにあるものは小さく、短い間しか続かず、朽ちるものです。ですから、それを憎むほうがよいのです。そして、あちらにあるもの、朽ちない良いものを愛するほうがよいのです。6:7 実際、キリストのみこころを行うなら、わたしたちは安息を見いだします。そうでなく、その戒めを聞き流すなら、何ものも、永遠の刑罰からわたしたちを救い出しはしません。6:8 聖書も、エゼキエル書の中で、こう言っています。たとえノアとヨブとダニエルが立ち上がっても、捕囚の中にいる自分の子供たちを救い出すことはできない、と（エゼキエル一四・一四～二〇）。6:9 このような正しい人々でさえ、自分の義によって、自分の子供たちを救い出すことができないのです。それなら、わたしたちは、洗礼を清く汚れのないものとして守らなければ、どんな確信をもって神の国に入るのでしょうか。また、きよく正しい行いを持つ者と認められないなら、だれがわたしたちの助け主となるのでしょうか。

訳注

1 この言葉は今の福音書にない。失われた福音書からの引用とみられる。

2　ペテロとのこの問答は今の福音書にない。失われた福音書からとみられる。

7〜13章　朽ちない競技と肉の悔い改め

7:1 ですから、わたしの兄弟たちよ、次のことを知って戦いましょう。競技は、もう目の前にあります。朽ちる競技には、多くの者が船でやって来ます。しかし、すべての者が冠を受けるのではありません。多くの労苦をして、りっぱに戦った者だけが冠を受けるのです。7:2 ですから、わたしたちは、皆が冠を受けるように戦いましょう。7:3 ですから、まっすぐな道を、朽ちない競技を走りましょう。大勢でその競技へと船で向かい、戦いましょう。冠を受けるためです。たとえ皆が冠を受けることはできなくても、せめて冠の近くまでは行きましょう。7:4 わたしたちは、知っておかなければなりません。朽ちる競技を戦う者でも、反則で競技を汚しているのが見つかれば、むちで打たれます。そして連れ出され、競技場の外へ放り出されるのです。7:5 あなたがたは、どう思いますか。朽ちない競技を汚した者は、どんな目にあうでしょうか。7:6 封印を守らなかった者たちについて、こう言われるからです。『そのうじは死なず、その火は消えることがない。そして、彼らはすべての肉なる者の見るものとなる』（イザヤ六六・二四）。

8:1 ですから、地上にいるあいだに、悔い改めましょう。8:2 実際、わたしたちは、職人の手の中の粘土です。陶器師は、器を作っているとき、それが手の中でゆがんだり、こわれたりすれば、もう一度それを造り直すのです。しかし、先にそれを火の炉に入れてしまえば、もう手の施しようがありません。それと同じように、わたしたちも、この世にいるあいだに、肉において行った悪いことを、心を尽くして悔い改めましょう。悔い改めの時があるうちに、主によって救われるためです。8:3 この世から出て行ったあとでは、あちらで罪を告白することも、もう悔い改めることもできないからです。8:4 ですから、兄弟たちよ、父のみこころを行い、肉を清く保ち、主の戒めを守るなら、わたしたちは永遠のいのちを受けるのです。8:5 主が、福音書の中で、こう言われるのです。『もし小さなものを守らなかったなら、だれが大きなものをあなたがたに与えるだろうか。あなたがたに言っておく。小事に忠実な人は、大事にも忠実である』[1]。8:6 つまり、主が言われるのは、こういうことです。あなたがたは、肉を清く保ち、封印を汚れのないものとして守りなさい。それは、わたしたちが永遠のいのちを受けるためです。

9:1 また、あなたがたのうちのだれも、「この肉は裁かれず、よみがえりもしない」と言ってはなりません。9:2 悟りなさい。あなたがたは、何において救われたのですか。何において見えるようになったのですか。この肉のうちにいたときではありませんか。9:3 ですから、わたしたちは、神の宮として、肉を守らなければなりません。9:4 実際、あなたがたは、肉において召されたように、肉において来ることになるのです。9:5 わたしたちを救ってくださった主キリストは、初めは霊であられたのに、肉となられました。そのようにして、わたしたちを召してくださったのです。そうであれば、わたしたちも同じように、この肉において報いを受けるのです。9:6 ですから、互いに愛し合いましょう。わたしたちが皆、神の国に入るためです。9:7 いやされる時があるうちに、いやしてくださる神に、お返しをして、自分をゆだねましょう。9:8 どんなお返しでしょうか。純真な心から悔い改めることです。9:9 実際、神は、すべてのことを前もって知っておられ、わたしたちの心の中にあるものもご存じなのです。9:10 ですから、口からだけでなく、心からも、神に賛美をささげましょう。神が、わたしたちを子として受け入れてくださるためです。9:11 主も、こう言われたのです。『わたしの父のみこころを行う人たちこそ、わたしの兄弟である』。

10:1 ですから、わたしの兄弟たちよ、わたしたちを召してくださった父のみこころを行いましょう。わたしたちが生きるためです。むしろ徳を追い求めましょう。悪は、わたしたちの罪の先に立って道を行くものですから、捨て去りましょう。不信心から逃れましょう。災いがわたしたちを捕らえないためです。10:2 実際、わたしたちが善を行うことに励むなら、平和がわたしたちを追いかけてくる

のです。10:3 実際、このために、人間的な恐れを持ち込む人々は、平和を見いだすことができないのです[2]。彼らは、来たるべき約束よりも、ここでの楽しみのほうを選んでいます。10:4 ここでの楽しみにどれほどの責め苦があり、来たるべき約束にどれほどの喜びがあるかを、彼らは知らないのです。10:5 もし彼らが、自分たちだけでこれを行っているのなら、まだしも許せたでしょう。ところが今、彼らは、罪のない魂たちに悪い教えを説き続けていて、二重の裁きを受けることを知らないのです。彼ら自身も、彼らに聞く者たちも、そうなるのです。

11:1 ですから、わたしたちは、清い心で神に仕えましょう。そうすれば、正しい者となります。しかし、神の約束を信じないために仕えないなら、わたしたちはみじめな者となります。11:2 預言のことばも、こう言っているのです。『二心の者たち、心の中で疑う者たちはみじめだ。彼らは言う。「わたしたちは、これらのことを、とうの昔に、父祖の時代にも聞いた。しかし、わたしたちは日ごとに待ち望んでいるのに、そのどれ一つとして見たことがない」。11:3 愚かな者たちよ、自分を木と比べてみよ。ぶどうの木を取り上げてみよ。まず葉を落とし、次に芽が出て、その後に青い実、そして実ったぶどうの房となる。11:4 そのように、わたしの民も、騒乱と苦難を経てきた。その後に、良いものを受けるであろう』[3]。11:5 ですから、わたしの兄弟たちよ、二心にならないようにしましょう。むしろ、望みを置いて耐え忍びましょう。報いをも受けるためです。11:6 実際、一人一人に、その行いの報いを返すと約束してくださった方は、忠実な方なのです。11:7 ですから、神の前で義を行うなら、わたしたちは神の国に入り、約束されたものを受けるのです。それは、耳がまだ聞かず、目がまだ見ず、人の心に思い浮びもしなかったものです。

12:1 ですから、愛と義のうちに、神の国を刻々と待ち望みましょう。わたしたちは、神の現れの日を知らないからです。12:2 実際、主ご自身が、ある人から、ご自分の国はいつ来るのかと尋ねられたとき、こう言われたのです。『二つが一つとなり、外が内のようになり、男が女と共にあって、男でも女でもなくなるときである』[4]。12:3 『二つが一つ』となるのは、わたしたちが互いに真実を語り、二つのからだの中に、偽りなく一つの魂があるときです。12:4 『外が内のように』とは、こういうことです。『内』とは魂のことを言われ、『外』とはからだのことを言われます。ですから、あなたのからだが目に見えるように、あなたの魂も、良い行いによって明らかにしなさい。12:5 『男が女と共にあって、男でも女でもない』とは、こういうことです。兄弟が姉妹を見ても、女として彼女のことを何も思わないことです。姉妹もまた、兄弟のことを男として何も思わないことです。12:6 あなたがたがこれらのことを行うとき、わたしの父の国は来る、と主は言われます。

13:1 ですから、兄弟たちよ、今こそ悔い改めましょう。身を慎んで、善に向かいましょう。実際、わたしたちは、多くの愚かさと悪とに満ちているのです。以前の罪を、わたしたちから拭い去りましょう。心から悔い改めて、救われましょう。人にへつらう者とならないようにしましょう。わたしたちどうしを喜ばせることだけを望むのでなく、外の人々をも、義によって喜ばせることを望みましょう。御名が、わたしたちのゆえに汚されないためです。13:2 主が、こう言われるのです。『わたしの名は、絶えず、すべての異邦人の間で汚されている』（イザヤ五二・五）。また、こうも言われます。『わざわいだ、わたしの名が汚される原因となる者は』[5]。何によって汚されるのでしょうか。わたしの望むことを、あなたがたが行わないことによってです。13:3 実際、異邦人は、わたしたちの口から神のことばを聞くと、それを美しく偉大なものとして驚嘆します。ところが、後になって、わたしたちの行いが、わたしたちの語ることばにふさわしくないと知ります。すると、一転して御名を汚し、作り話だ、迷いだと言うのです。13:4 実際、神がこう言われるのを、彼らがわたしたちから聞くときのことです。『自分を愛してくれる者を愛しても、あなたがたの手柄にはならない。しかし、敵を愛し、自分を憎む者を愛するなら、それがあなたがたの手柄になる』。これを聞くと、彼らは、この上ない善に驚嘆します。しかし、わたしたちが、憎む者を愛さないばかりか、愛してくれる者さえ愛さないのを見ると、わたしたちをあざ笑います。こうして、御名が汚されるのです。

訳注

1 前半は今の福音書にない。後半はルカ一六・一〇と同じ言葉。
2 この文の本文は早くに崩れたとみられ、意味がはっきりしない。

3　今の聖書にない言葉。『クレメンスの第一の手紙』二三章にも引かれる。
4　今の福音書にない言葉。古代には『エジプト人福音書』にあると伝えられた。
5　この形では聖書にない。イザヤ五二・五の古い引用の形とみられる。

14〜20章　いのちの教会と来たるべき裁き

14:1 ですから、兄弟たちよ、わたしたちの父である神のみこころを行うなら、わたしたちは最初の教会に属する者となります。それは霊的な教会、太陽と月よりも前に造られた教会です。しかし、主のみこころを行わないなら、わたしたちは、聖書が次のように言う者たちとなります。『わたしの家は強盗の巣となった』（エレミヤ七・一一）。ですから、いのちの教会に属する者となることを選びましょう。救われるためです。14:2 わたしは、あなたがたが次のことを知らないとは思いません。生きている教会は、キリストのからだです。聖書が、こう言っているのです。『神は人を男と女とに造られた』（創世記一・二七）。男とはキリストであり、女とは教会です。さらに、書物と使徒たちも、教会は今になってあるのではなく、初めからあると言っています。実際、教会は霊的なものでした。わたしたちのイエスもそうであられました。しかし、イエスは、終わりの日に現されました[1]。わたしたちを救うためです。14:3 教会は、霊的なものでありながら、キリストの肉において現されました。そして、わたしたちに次のことを示しています。わたしたちのうちのだれかが、肉において教会を守り、汚さないなら、聖霊において教会を受けるのです。実際、この肉は霊の写しです。ですから、写しを汚した者は、だれも原本にあずかることはありません。つまり、兄弟たちよ、主が言われるのは、こういうことです。肉を守りなさい。霊にあずかるためです。14:4 また、肉は教会であり、霊はキリストである、とわたしたちが言うのなら、肉を辱めた者は、教会を辱めたことになります。ですから、そのような者は、霊にあずかることはありません。その霊とは、キリストです。14:5 この肉は、聖霊が結びつくとき、いのちと朽ちないこととにあずかることができます。それは、主がご自分の選ばれた者たちに備えられたもので、だれも言い尽くすことも、語ることもできないほど大きなものです。

15:1 さて、わたしは、自制について、小さな勧めをしたとは思いません。この勧めを行う人は、後悔することがありません。かえって、自分自身も、勧めたわたしをも救うでしょう。実際、迷って滅びかけている魂を立ち返らせ、救いに至らせることは、小さな報いではないのです。15:2 これこそ、わたしたちを造られた神に、わたしたちがささげることのできるお返しなのです。それは、語る者も聞く者も、信仰と愛とをもって語り、また聞くときです。15:3 ですから、わたしたちは、正しくきよい者として、信じたことにとどまりましょう。大胆に神に願い求めるためです。神は、こう言われる方です。『あなたがまだ語っているうちに、わたしは言う。「見よ、わたしはここにおる」』（イザヤ五八・九）。15:4 実際、このことばは、大きな約束のしるしです。主は、求める者が求めるよりも、ご自分のほうが与える用意ができている、と言われるのです。15:5 わたしたちは、これほどの慈しみにあずかっているのです。ですから、これほど多くの良いものを受けることを、自分自身に惜しまないようにしましょう。実際、これらのことばは、それを行う人々に大きな喜びをもたらします。そして、聞き流す人々には、それと同じほど大きな罪の宣告をもたらすのです。

16:1 ですから、兄弟たちよ、わたしたちは、悔い改めるための小さくない機会を得たのです。時があるうちに、わたしたちを召してくださった神に立ち返りましょう。わたしたちを受け入れてくださる方[2]が、まだおられるうちにです。16:2 実際、わたしたちが、これらの快楽に別れを告げ、魂の悪い欲望を行わずに魂に打ち勝つなら、イエスのあわれみにあずかるのです。16:3 あなたがたは知っています。裁きの日が、燃える炉のように、もう来ようとしています。天のいくつかは溶け、地全体も、火の上で溶ける鉛のように溶けるでしょう。そのとき、人々の隠れた行いも、明らかな行いも、現れるのです。16:4 ですから、施しは、罪の悔い改めと同じように、良いものです。断食は祈りにまさり、施しはその両方にまさります。また、愛は多くの罪をおおうものです。そして、良い良心から出る祈りは、死から救います。これらのことに満ちていると認められる者は、皆幸いです。実際、施しは、罪を軽くするものとなるのです。

17:1 ですから、心を尽くして悔い改めましょう。わたしたちのうちのだれも、途中で滅びることのないためです。実際、わたしたちは、人々を偶像から引き離して教えることさえ行うように、戒めを受けているのです。そうであれば、すでに神を知っている魂が滅びてはならないのは、なおさらのことではありませんか。17:2 ですから、弱い者たちをも善へと引き上げるために、互いに助け合いましょう。わたしたちが皆救われるためです。そして、互いに立ち返らせ、戒め合いましょう。17:3 また、わたしたちは、長老たちから戒めを受けている今だけ、信じて心を向けているように見えることのないようにしましょう。家に帰ってからも、主の定めを覚えていましょう。この世の欲望に引き戻されないようにしましょう。むしろ、もっとしばしば集まって、主の戒めのうちに進むよう努めましょう。皆が同じ思いを持ち、いのちへと集められているためです。17:4 主が、こう言われたのです。『わたしは来て、すべての国民と部族と言語の民とを集める』（イザヤ六六・一八）。主が言われるのは、ご自分の現れの日のことです。そのとき、主は来て、わたしたち一人一人を、その行いに応じてあがなわれます。17:5 そして、不信仰な者たちは、主の栄光と力とを見るでしょう。この世の王権がイエスにあるのを見て、驚き、こう言うでしょう。「わざわいだ、わたしたちは。あなたがその方だったのに、わたしたちは知らず、信じなかった。わたしたちの救いについて告げ知らせてくれた長老たちに、従わなかった」。そして、『そのうじは死なず、その火は消えることがない。そして、彼らはすべての肉なる者の見るものとなる』（イザヤ六六・二四）。17:6 主が言われるのは、あの裁きの日のことです。そのとき、人々は、わたしたちのうちで不敬虔を行い、イエス・キリストの戒めを曲げた者たちを見るのです。17:7 道を踏み外し、ことばや行いによってイエスを否んだ者たちは、消えない火の恐ろしい責め苦で罰せられます。しかし、善を行い、責め苦を耐え忍び、魂の快楽を憎んだ正しい人々は、そのありさまを見ます。そのとき、彼らは、自分たちの神に栄光を帰すでしょう。そして、こう言うのです。「心を尽くして神に仕えた者には、望みがある」。

18:1 ですから、わたしたちも、感謝する者たち、神に仕えた者たちのうちに入りましょう。裁かれる不敬虔な者たちのうちに入らないようにしましょう。18:2 実際、わたし自身も、まったくの罪人です。まだ誘惑から逃れておらず、いまだに悪魔の攻め道具のただ中にいます。それでも、来たるべき裁きを恐れて、義を追い求めることに励んでいます。せめて義の近くまでは行けるようになるためです。

19:1 ですから、兄弟姉妹たちよ、真理の神のことばに続いて、わたしは、あなたがたに訴えを読み上げます。書かれていることに心を向けてもらうためです。それは、あなたがたが、自分自身も、あなたがたの中で読んでいる者をも救うためです。実際、わたしが報いとしてあなたがたに求めるのは、心を尽くして悔い改め、自分自身に救いといのちを与えることです。これを行えば、わたしたちは、すべての若い人たちに目標を示すことになるのです。敬虔と神の慈しみとに励もうと願う若い人たちにです。19:2 また、だれかがわたしたちを戒めて、不義から義へと立ち返らせることがあります。そのとき、わたしたち知恵のない者は、不快に思ったり、腹を立てたりしないようにしましょう。実際、わたしたちは、時として、悪いことを行いながら、それに気づかないのです。わたしたちの胸の中にある二心と不信仰のゆえです。そして、むなしい欲望によって、思いが暗くされているのです。19:3 ですから、義を行いましょう。ついには救われるためです。これらの命令に従う人々は幸いです。たとえ、この世でしばらく苦しみを受けても、復活の不死の実を刈り取るのです。19:4 ですから、敬虔な人は、今の時に苦しむとしても、悲しまなくてよいのです。幸いな時が、その人を待っています。その人は、上で父祖たちと共に生き返り、悲しみのない世で喜び楽しむのです。

20:1 しかし、正しくない者たちが富み、神のしもべたちが苦しめられているのを、わたしたちは見ています。そのことによっても、あなたがたの思いを騒がせてはなりません。20:2 ですから、兄弟姉妹たちよ、信じましょう。わたしたちは、生ける神の試練を競技として戦い、今の生において鍛えられているのです。来たるべき生において、冠を受けるためです。20:3 正しい者たちのうち、だれも、すぐに実を受けた者はいません。むしろ、それを待っているのです。20:4 実際、神が正しい者たちに報いをすぐに返されるとしたら、わたしたちは、たちまち、神を敬うことではなく、商売に励むでしょう。正しい者のように見えながら、敬虔ではなく、もうけを追い求めることになるのです。そして、このゆえ

に、神の裁きは、正しくない霊を打ち、鎖で重く縛るのです。20:5 見えない唯一の神、真理の父は、救い主、朽ちないことの導き手を、わたしたちに遣わしてくださいました。そして、この方によって、真理と天のいのちとを、わたしたちに現してくださいました。この神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。クレメンスのコリント人への第二の手紙[3]

訳注

1 『現された』の主語を、イエスでなく教会とみる読み方もある。
2 写本では『わたしたちを受け入れてくださる父』とある。
3 手紙と呼ばれてきたが、第一の手紙とは別の人による説教とみられる。

クレメンスへの第二の手紙

2026年11月23日版
著者　著者不明
制作　藤遥
発行　christian-classics-jp
公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/second-clement/
原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/second-clement
全文を、ギリシア語原文（Κλημέντος πρὸς Κορινθιούς Β）からAIを使って翻訳しました。
訳文はCC BY-SA 4.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。